

筑波大学新聞

第320号

編集責任 筑波大学新聞 編集代表 福原直樹
TEL: 029(853)2040-6699
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所 筑波大学
茨城県つくば市 天王台1-1-1

英語を徹底 独自の教育

国際教養大学の試み

日本経済新聞社の「人材育成力ランキング」(2012年)で1位を獲得した公立大学の国際教養大学(秋田市、2004年設立)。就職内定率は毎年ほぼ100%を誇る。その理由は、授業は全て英語で実施し、1年間、留学生と共に過ごす寮生活が義務づけられ、1年間、欧米・アジアなどの大学への海外留学が必須……など他大学に類を見ない独自の教育だ。同大学を訪れた。



ある日の「Economic Growth」の授業。教員はタイ出身のスペル・サファイトーン助教だ。米・クレアモント大学大学院で博士号を取得した同助教は、流暢な英語で講義を進める。What can you do? という同助教の問いに間髪を入れず英語で「think……」と答え始める学生。学生の視線は真剣だった。



「Economic Growth」の授業で学生に問うサファイトーン助教(左)(2月20日、国際教養大学で) = 井口彩撮影

「授業では予習が必須。授業は知識を得るだけではない。英語でのコミュニケーション能力を磨く場にもなっている」と語る。一方、受講生の依田祐さん(国際教養学部4年)は「英語での授業でも、予習をしていれば授業に追いついていける」と話す。分からない点があれば学生同士で勉強会を行い解決することもあった。

これらの授業について、カリキュラムの作成に携わった同大教務課の齊藤良氏は「授業では一クラスあたり平均17人の少人数制を基本としている。また、授業はその授業内容や成績基準をシラバスで詳細に掲載。これを見た上で学生は授業を受講するため、学生と教員の『ずれ違い』を防ぎ、学生と教員のコミュニケーションが可能な授業になっている。シラバスは学生と教員の『契約書』の役割も果たしている」と語る。

授業以外にも、学生は国際性が求められる。同大の寮では入学後の1年間、留学生と共同生活を送る。これについて依田さん(同5年)は「寮生活で仲間とのきずなを深め、つらいことも乗り越えられた。寮ではさまざまな出身地の仲間から多様な価値観を知ることができた」と話す。

一方、卒業の前提である筑波大学周辺の街灯がなくて暗い道で深夜、女性を狙った路上わいせつ事件が多発していた問題で、つくば市は3月末に筑波大西側の春日地区の道路に13本の街灯を設置した。大学周辺では一昨年、前年から事件が増え、特に同地区では女子学生が自宅前で男に体を

触られるなど事件が多発しており、街灯設置を求める声が相次いでいた。筑波大周辺には他にも暗い道が多いため、同市は大学周辺の春日地区の筑波大と筑波技

術大学の間の道、約3000m。筑波技術大側の歩道に10本の街灯と、筑波大側と交差点に3本の「ハイウェイ灯」という広範囲を照らす電灯の計13本が設置された。更に、設置の効果を高めるため筑波技術大が街路樹や植え込みを剪定するなど、市と大学が連携し問題を解決を進めている。この道をよく通るという、筑波大を卒業した会社員の男性は「明るくなって本当に良かった」と話した。

一方、同市の関連機関が街灯問題を協議する「明るいまちづくり協議会(仮称)」について、同市が今年夏の正式発足を目標としており、同市の取材で分かった。同市の市原健一市長が昨年1月に設立を明らかにしていたもので、メンバーには、つくば市現の宇宙航空研究開発機構(JAXA)など大学周辺の大通り沿いにある研究機関約20団体が候補に挙がっている。今後更にメンバーを拡大していく方針という。

春日地区に街灯13本 協議会は今夏発足へ



また、同市道路課は3月、大学周辺の大通りの照度を計測するため、照度計測器と現在位置を特定する全地球測位システム(GPS)を搭載した自動車による調査を開始。今後、歩行者数の調査なども行い、今年6月までに協議に必要なデータをそろえる予定だ。担当者は「予算の問題もあり、市内全域に街灯を立てることはできない。街灯の設置だけでなく、街路樹の剪定なども行い、さまざまな方法

ALS患者と「会話」

脳波から意思読み取る

10年内実用化へ
手足や顔、舌など全身の筋肉が動かなくなる難病「筋萎縮性側索硬化症(ALS)」の患者との「会話」

脳が段階的に侵される。筋肉を動かそうとする信号が伝わらなくなり、舌の動きも阻害されるため、会話もできなくなる。現在の医療では完治しない難病とされ、日本では発症は50〜70歳代に集中。厚生労働省によると患者は2009年で8000人を超えている。

同講師による開発中の装置は、患者の聴覚や触覚を刺激し、この結果得られた脳波の変化をコンピュータで検出。この変化から、患者の意思を読み取ることを目指す。特に現在は「喉の渇き……」のようにすれば、さまざまな意思を読み取れるという。

一方、この方法では、身体に何力所も装置を長時間つける必要があり、患者に苦痛を与える恐れもある。このため同講師は、超音波で空気を震動させ、身体に触れずに触覚を刺激できる装置「空中超音波触覚ディスプレイ」を利用する方法も提案している。

同講師によると脳波は非常に弱い電気信号で、筋肉を動かす時などに体内を流れる強い電気信号に検出を妨げられやすい。そのため脳波信号のみを検出できる装置を開発し、より精度の高い計測を目指す方針だ。(林健太郎II社会学類3年13面に関連記事)

同講師によると、脳波から患者の意思を読み取る装置の開発を、筑波大学のトコフスキ・トマシユ講師(シス情系)が進めている。同講師は「5〜10年内の実用化を目指すとしており、装置が完成すれば、患者や家族にとって大きな朗報になりそうだ。ALSでは脳などからの命令を筋肉に伝える神経細胞が段階的に侵される。筋肉を動かそうとする信号が伝わらなくなり、舌の動きも阻害されるため、会話もできなくなる。現在の医療では完治しない難病とされ、日本では発症は50〜70歳代に集中。厚生労働省によると患者は2009年で8000人を超えている。



街灯設置前の春日4丁目(左)(2013年10月撮影)と街灯設置後(右)(今年3月撮影)。標識手前にも街灯が付き、格段に明るくなった。

同講師によると、脳波は非常に弱い電気信号で、筋肉を動かす時などに体内を流れる強い電気信号に検出を妨げられやすい。そのため脳波信号のみを検出できる装置を開発し、より精度の高い計測を目指す方針だ。(林健太郎II社会学類3年13面に関連記事)

同講師によると、脳波から患者の意思を読み取る装置の開発を、筑波大学のトコフスキ・トマシユ講師(シス情系)が進めている。同講師は「5〜10年内の実用化を目指すとしており、装置が完成すれば、患者や家族にとって大きな朗報になりそうだ。ALSでは脳などからの命令を筋肉に伝える神経細胞が段階的に侵される。筋肉を動かそうとする信号が伝わらなくなり、舌の動きも阻害されるため、会話もできなくなる。現在の医療では完治しない難病とされ、日本では発症は50〜70歳代に集中。厚生労働省によると患者は2009年で8000人を超えている。

前川啓治教授 「筑波山に学ぶ」を出版	2
佐藤貢悦教授 日中韓のマナー明らかに	3
蹴球部 高校日本一争った主将 入部	15
三谷純教授 折り紙に科学を応用	16
災害精神支援学 被災地で心のケア学ぶ	18
自転車防犯登録 「譲る時に名義変更を」	19
特集 12,13	
学生宿舎 つくば市の現行条例に違反	
三三特集 17	
サービス充実 賢い図書館の利用法	

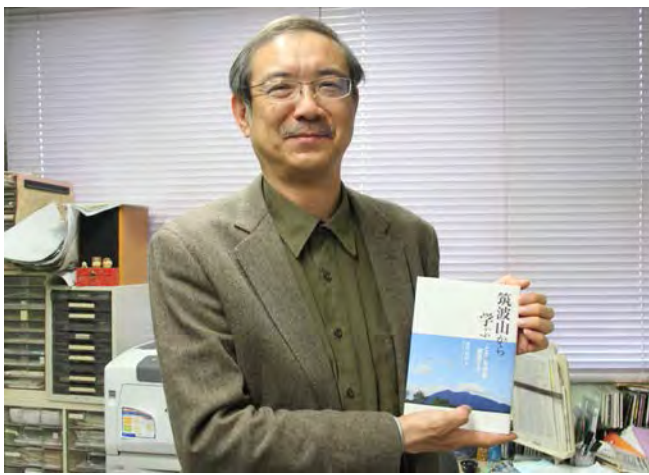
2年前に大学に入学した直後、新生活になかなか馴染めなかった。高校までに築いた自分の信念や人間関係が変わってしまうことが怖かったからだ。そんな自分にとって、高校時代の友人と連絡を取る時間が心の拠り所だった。だが、部活や受験勉強を共に頑張った仲間から「留学や資格など新しい目標に向かって努力している」と聞くと、置き去りにされたような寂しさを感じた。自分も何か新しいことを始めよう、思い切って大学新聞編集部の門をたたいた。最初は不安だったが、次第に取材や編集に充実感を得られる自分を発見した。記事を褒められると自信もついた。17世紀イタリヤが舞台の欧州映画「山猫の中に」が変わらないためには変わり続けなければならない」という台詞がある。優しさや強さなど個人が持つ本質を保つためには、環境に順応しながら生きることも必要という意味だと思ふ。▼高校の友人たちは、当時とは違う場所へ、違う目標に向かって進んでいる。しかし、彼らの目標を持って努力している。姿勢そのものは高校時代から変わらない。そのことに、自分も新たな場所へ前に進むうちに気付いた。▼これから年を重ねるうち、置かれた状況や目標が変わっていくだろう。だが、根本の部分は変わらないまま進みたい。今年も新生活を迎えた。尊敬する友人たちと、変わらぬ友情を守っていききたい。

筑波山研究の集大成

『筑波山から学ぶ』を出版

「つくばに残る『伝統』知って」

前川啓治教授(人文学部)は1月、編著『筑波山から学ぶー「とき」を想像・創造する』(筑波大学出版会)を出版した。同書は、10年にわたる同教授の筑波山周辺の歴史や民俗、街づくりに関する調査の集大成で、『筑波山の研究をまとめた貴重な書籍』と話題を呼んでいる。研究の傍らで地域住民や学生と筑波山麓地区の街おこしも行う同教授に、筑波山の研究を始めた経緯や、同書の魅力を聞いた。(井口彩二社会学類3年、写真も)



出版した書籍を持つ前川教授(2月12日、3K棟で)

研究 探求

文化人類学と筑波山

文化人類学が専門の前川教授。大学院生のごころからオーストラリアの先住民を研究してきた。土着の文化を持つ先住民が近代的な漁をする様子を現地で見ると「近代」の結び付きがあることを発見した。このことから同教授は、発展途上の社会の開発では、伝統的な文化と近代的な技術を共存させることの重要性を指摘。グローバル化を進める一方で地域に固有の文化を守る「グローカリゼーション」を推進する必要があるとした。

前川教授は04年から、当時の国際関係学類開設の「野外調査法」の授業の一環で筑波山麓地域の現地調査を行った。すると、学生が次第に筑波山周辺の文化の魅力に気づき、実際に筑波山を訪れて地域住民と交流するプロジェクトを自ら開始。卒業生が北条地区の米を使用したアイスクリュー「北条米スタクリュー」を開発し、話題も呼んだ。その他にも、現地で開催された「つくば山麓まつり」

書籍を出版

前川教授は、筑波山研究の集大成として、『筑波山から学ぶ』を出版。筑波山の歴史や、周辺地域の文化や経済がどのように発展してきたかをまとめた。同教授が特に力を入れたのが、カバール裏に掲載された「筑波山麓マップ」だ。「マップ」とは、古い街並みなど地域に昔からある風景を築きながら歩きたための古道のこと。同教授は、以前からつくば市やNPO法人と共同で筑波山麓の古道を調査して道標を置き、観光客などが散策を楽しめるように整備してきた。

前川教授は、筑波山研究の集大成として、『筑波山から学ぶ』を出版。筑波山の歴史や、周辺地域の文化や経済がどのように発展してきたかをまとめた。同教授が特に力を入れたのが、カバール裏に掲載された「筑波山麓マップ」だ。「マップ」とは、古い街並みなど地域に昔からある風景を築きながら歩きたための古道のこと。同教授は、以前からつくば市やNPO法人と共同で筑波山麓の古道を調査して道標を置き、観光客などが散策を楽しめるように整備してきた。

読者への声

学園都市つくばにある伝統的な文化を調査してきた前川教授。学生に向け「つくば市には多様な文化がある。これを読み、文化を守りながら地域が発展するにどうするか。今後の日本の地域づくりについて考えてほしい」とメッセージを送った。同教授の活動は、より多くの人に「筑波」を知ってもらう以外にも、別の目的がある。周辺地域の住民自身に筑波山の魅力を再認識してもらった。

特別実習が2月1日に3A棟で行われた。科学に関する高い小・中・高校生を相手に「白川英樹名誉教授」の受講で疑う姿勢が大切だ」と語った。今回の実験では、導電性を超えた自主研究や専門的な勉強を希望する生徒に、大学教員や大学院生が支援を行うプロジェクト。これまでもプログラム、バイスを受けながら、真剣に実験に取り組んでいた。実験に参加した生徒は「まるで金属のように電気を通す導電性高分子の性質は、とても興味深い。実際に目で見て確かめることができて良かった」と話した。

東北沖プレート 震災前の状態に

大地震再び発生の可能性



エネスク・ボグダン准教授

「ワイマ」教授らの研究で分かった。東北沖地震で一度放出されたプレートIIにかかる力の大きさが地震の発生前の水準に回復しているためだ。同准教授は「これまで巨大地震の発生後は、力の回復に長い時間を要するため大規模な地震が起きにくいと考えられていたが、それは言い切れない。『地震はしばしば来ない』と油断しない」

東日本大震災の発生した東北沖で、今後大地震がいつ生じてもおかしくない状況にあることがエネスク・ボグダン准教授(生環境学)とスイス連邦工科大学チューリッヒ校のステファ

は、巨大地震の発生間隔や規模が従来考えられていたよりも不規則であることも解明。同准教授の分析方法を使えば、地震を起こすエネルギーの蓄積状態をより正確に測定でき、巨大地震発生予測の精度向上に役立つという。(久保貴旺II地球学類3年)

「プレートの地球の表面を覆う十数枚の岩盤で、大陸プレートと海洋プレートがある。プレートとプレートの間に部分的に蓄積したエネルギーが解放されることで地震が起きると考えられている。この分析を基に同准教授

企業とドーピング検査の研究

検査時間の短縮を目指す

筑波大学と株式会社LSIメテックス(東京都千代田区)は1月29日、共同でドーピング検査の研究・開発を行うと発表した。同社は国内で唯一の世界アンチ・ドーピング機関(WADA)公認の検体分析機関で、大学と共同で研究や開発を行うのは初の試みだ。共同研究では、酸素運搬能力や持久力の向上に効果的な禁止物質「エリスロポエチン」の分析法の開発に取り組み。従来の方法では多くの採尿を必要とし、結果が出るまでに数日かかることなどから改善が求められていた。

そこで筑波大の竹越一博教授(医学医療系)の研究グループと同社は、24時間以内に検査できる手法の確立を目指す。同社の陰山信二アンチ・ドーピングラボラトリー長は「1年をめどに開発を進めたい」と意気込む。筑波大は2013年11月、日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と連携及び協力に関する協定を締結。体育専門学群の授業「アンチ・ドーピング」で同機構の職員を講師として招くなど、ドーピング防止に取り組んできた。佐々木優II知識情報図書館学類4年

シンポで学長講演 多様化した大学へ 筑波大学が主催するシンポジウム「大学のグローバル化」をテーマに議論が行われた。まず、永田学長が筑波大のグローバル化に向けての構想を説明。授業や教員を海外の大学と相互に共有する「キャンパスイン」や「キャンパスアウト」を軸に筑波大の教育や研究の質を高めていく考えを示した。その後のパネルディスカッションでは、パネリストに国際大学協会のエヴァ・エグロン・ポラック事務局長らも招き、大学のグローバル化の指標の一つである「世界の大学ランキング」の問題点などを議論した。エヴァ事務局長は「ランキングの順位を過剰に意識することで、ランキングの審査基準だけを満たした大学ばかりになる」と指摘。「大学に必要なのは、均質

白川英樹名誉教授と実験

「当たり前前ことを疑え」



中高生に実験の指導をする白川名誉教授(2月1日、3A棟で)

ノーベル化学賞受賞者の白川英樹名誉教授が講師を務める「白川英樹名誉教授特別実習」が2月1日に3A棟で行われた。科学に関する高い小・中・高校生を相手に「白川英樹名誉教授」の受講で疑う姿勢が大切だ」と語った。今回の実験では、導電性を超えた自主研究や専門的な勉強を希望する生徒に、大学教員や大学院生が支援を行うプロジェクト。これまでもプログラム、バイスを受けながら、真剣に実験に取り組んでいた。実験に参加した生徒は「まるで金属のように電気を通す導電性高分子の性質は、とても興味深い。実際に目で見て確かめることができて良かった」と話した。

対象とした「未来を創る科学技術人材育成プログラム」(GFEST)の受講で疑う姿勢が大切だ」と語った。今回の実験では、導電性を超えた自主研究や専門的な勉強を希望する生徒に、大学教員や大学院生が支援を行うプロジェクト。これまでもプログラム、バイスを受けながら、真剣に実験に取り組んでいた。実験に参加した生徒は「まるで金属のように電気を通す導電性高分子の性質は、とても興味深い。実際に目で見て確かめることができて良かった」と話した。

催事

第41回 宿舎祭

第41回宿舎祭(やどかり祭)が5月29(金)〜30日(土)に開催される。今年からの新企画として「大学生クイズ」を開催。幅広い分野から出題され、優勝者には豪華賞品が贈呈される。出場者は1年生のみで、申し込みが必要。例年通り、三人一組のチーム戦を行う漢祭りや御興や模擬店などの参加者も募集している。問い合わせ undergraduatequiz@gmail.com (大学生クイズ参加申し込み) y.otokomatsuri2015@gmail.com (漢祭り) 詳細はhttp://www.stb.tsukuba.ac.jp/~yado

Kari / (宿舎祭ホームページ) 詳細はhttp://www.stb.tsukuba.ac.jp/~yado

『日中韓マナー・慣習基本事典』出版 同じ文化圏でもマナーに違い

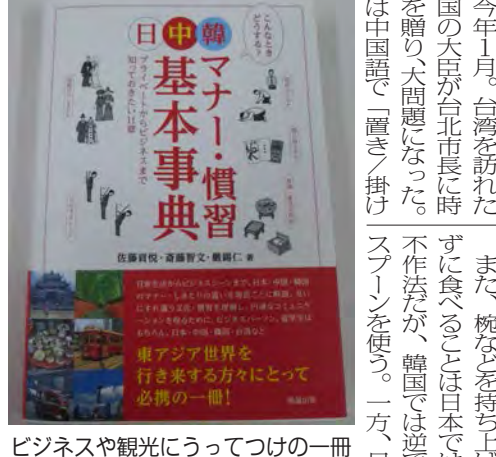
自らの「苦い」経験 反映

「中国人に置き時計を贈るのはタブー」「韓国で腕時計を持って食べるのは不作法」……。同じ文化圏でも大きな違いがある日中韓のマナーを、懇切丁寧に解説した『日中韓マナー・慣習基本事典』(勉誠出版)を、筑波大学の佐藤貢悦教授(人文学部・国際日本研究専攻)らが出版した。その興味深い内容は、中韓の学会などで反響を呼んでおり、年内にも中国語訳が出る予定という。(福原直樹)



佐藤貢悦教授

時計を贈るの「発音は、親の死に水を」との発音と、同じ。無論、それを贈ることとは大きな禁忌で、報道によくと、英国側は後に台湾側に謝罪している。



ビジネスや観光にうってつけの一冊

今年1月、台湾を訪れた英国の大臣が台北市長に時計を贈り、大問題になった。実は中国語で「置き」掛け「金運に恵まれる」と喜ぶ正月料理の海鮮サラダが存在する……。本書ではこれら、同じ文化圏の間でも誤解しやすいマナーや慣習を、中国、台湾、韓国などの滞在経験が長い佐藤教授らが解説する。だが興味深いのは、これらは「全て自分の失敗経験に基づいたもの」(佐藤教授)ということだ。

聴覚障害の有無で ストレス差 約5倍

か、また男女で違いが見られるかを分析した。対象は20〜39歳の男女13万人。

その結果、聴覚障害者には男女共に悩みやストレスを抱えている人が多く、精神面の健康状態の悪化が自立つことが分かった。また、聴覚障害のある女性はそうではない女性に比べ、喫煙者の割合が1.8倍、配偶者がいない人の割合が1.3倍だった。だが男性では、配偶者の有無や喫煙率に、聴覚障害者かどうかによる差は見られなかった。

今後は、聴覚障害の程度や教育環境、親が聴覚障害者であるかなど、より細かく調査対象を分類して分析を進める予定だ。小林さんは「聴覚障害者をひとくくりにとらえず、一人ひとりの違いに注目した研究を進める、障害者それぞれのニーズに合った支援を生かしたい」と話した。

田宮菜季子教授(医学医療系)、小林洋子さん(平成26年度人間総合科学研究科修了)らの研究グループは、聴覚障害のある人は、そうでない人に比べ、精神面の健康状態が悪い人の割合が約5倍高いことなどを統計から明らかにした。

体内時計を調整する細胞特定 新治療・新薬の開発に近づく



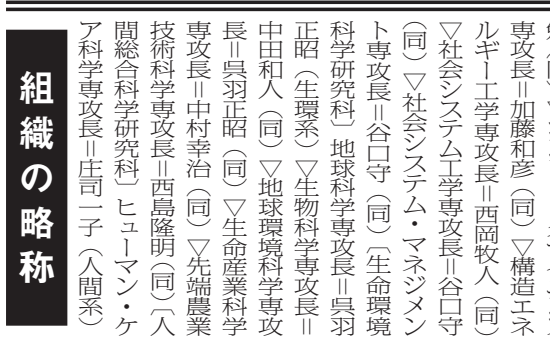
柳沢正史教授

「これは知られていたが、どの細胞が重要なのかは不明だった。睡眠障害の治療薬や、時差ボケを解消する薬の開発が期待される。

体内時計とは、昼は活動的に、夜は休息するように体の調子を整える機能のこと。体内のほとんどの細胞に存在し、約24時間周期のリズムを作っている。

教授らは、この中の「ニューロメジナル」という物質を作る細胞に着目。遺伝子操作でマウスの細胞中の体内時計を操作できる状態にして実験を行った。

中国留学生学友会が主催する中国の春節を祝うイベント「2015筑波大学中国留学生新年会」が2月1日、第二エリア学生食堂で開かれ、約200人の中国人留学生が集まった。



Jポップを披露する中国人留学生 (2月1日、第二エリア学生食堂で)

新任人事

【副学長】教育担当 伊藤真▼学生担当 玉川信▼総務・人事担当 稲垣敏之▼学術情報担当 中山伸一(兼附属図書館長)

【学群・学類長】(人文・文化学群) 学群長 古家信平(人文学部) 人間学群 心理学類長 綾部早穂(人間学)

【学群・学類】(人文学類) 人文(比叡) 環境科学専攻(環境) 持統環境学専攻(持統環境) 先端農業技術科学専攻(先端農業) ▼スポーツ健康システム・マネジメント専攻(スポーツ)

【学群・学類】(理工学群) 工学(理工学) 工学(理工学) 工学(理工学) 工学(理工学)

【学群・学類】(農学群) 農学(農学) 農学(農学) 農学(農学) 農学(農学)

建物の名称

▼第1エリアA棟 1A棟、B棟 1B棟、C棟 1C棟、D棟 1D棟、E棟 1E棟、F棟 1F棟、G棟 1G棟、H棟 1H棟、I棟 1I棟、J棟 1J棟

組織の略称

学専攻(生物圏) 生物圏学専攻(生物圏) 生命産業科学専攻(生命産業)

筑波大学新聞

新人記者求む 情報発信の最前線

あなたは何に興味がありますか。
 学問や研究、政治や行政、医療、学芸、スポーツ……。
 新聞は、そのすべてに関わることができます。
 筑波大学新聞の記者になって、
 欲張りな大学生活を送りませんか。



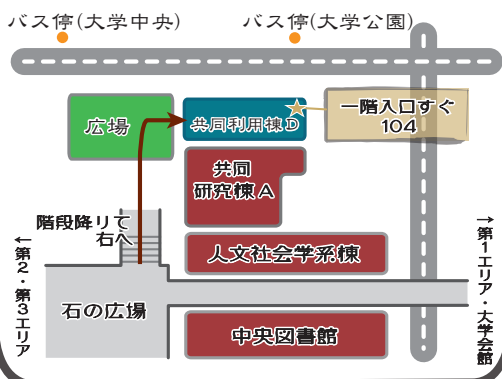
編集会議 毎週月曜

18時30分 共同利用棟D104

18時10分 平砂・一の矢共用棟前

18時20分 中央図書館前

にお集り下さい。案内します。(4月中)



本紙編集代表 福原直樹

大学新聞は、記者である学生がさまざまな担当を抱え、日々走り回っています。その中に警察や市役所の担当記者がいることをご存知でしょうか。前者は地元警察を回る事件(サツ回り)記者。大学周辺の事件・事故をカバーします。後者はつくば市役所を中心に地域政治を見ています。最近、双方の担当記者が生み出した一連の特ダネがありました。

「新聞の自由は批判の自由」

最初の記事はサツ回り記者が書きました。「大学周辺の街灯のない道で、女子学生へのわいせつ事件が増えている」との内容で、新聞の1面に掲載。一般紙が報じない内容で、素晴らしい特ダネでした。

記事の掲載後、記者たちは動きまわりました。彼らは、大学周辺の街灯のない暗い道を深夜、何度も歩いたのですが、その結論は単純明快でした。「暗すぎます。犯罪が起きてもおかしくない」。そして彼らが始めたのが「つくばには街灯を」というキャンペーンでした。被害者へのインタビューや女性記者の「暗い道・現場体験記」。そして更なる犯罪の発生報告……。幾重もの特ダネ記事が続き、ついに、授業中、私用でスマホを使う学生が多いことや、筑波大生の投票率が異様に低いことを明らかにしました。これらは大学や学生のあり方を問う記事となって残っています。

発行部数2万部。大学新聞は、このほかにも最先端の研究に関する記事あり、新聞がわずかでも貢献したのは間違いありません。プロから見て、水準の高い新聞です。そこでの記者活動は、人から情報を引き出す交渉力や、表現力、発信力を養うことに他なりません。ぜひ、大学新聞に参加されることを望みます。

◆ふくはら・なおき
 初代編集代表、鈴木博雄氏(現名誉教授)は概略、こう述べました。
 「大学の研究は批判精神によって担われているが、大学新聞も旺盛な批判精神によって貴られるべきだ。『新聞の自由とは批判の自由』である」

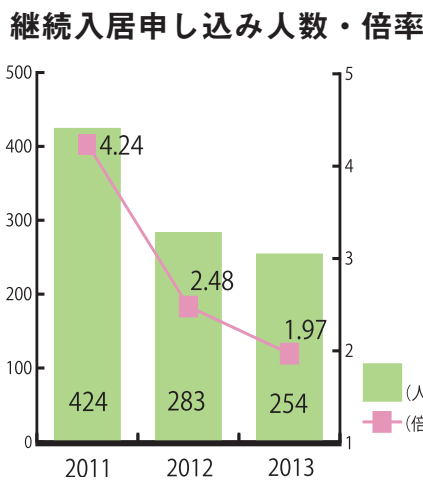
この精神は今も脈々と受け継がれています。前述のキャンペーン「つくばには街灯を」はその一つ。最近、教員や学生への数百人規模のアンケートを頻繁に行っている。

つくば市の現行条例に違反

筑波大学の学生宿舎は、開学以来約40年間にわたり新生や留学生を受け入れてきた。だが、近年は2年目以降の入居を希望する学生が減少。建物の老朽化や部屋の狭さなど宿舎の環境に不満を持つ学生も多いため。また、本紙の現場調査ではつくば市の現行条例が定める床の最低面積を下回る部屋もあった。宿舎の現状や問題点を探った。(油布知夏、森脇慎二、小野憲司、新田明夏、森脇慎二)

継続入居希望は年々減少

筑波大学では、「学生に良好な勉学の環境を提供し、自律的な市民生活を体験させる」(学生宿舎案内パンフレット)ことを目的に学生宿舎を設置している。4つの地区に計60の宿舎棟があり、計3987人を収容できる。新生の入居が優先され、例年約60%の新生が入居している。だが、「2年目以降も宿舎に住みたい」と考える学生が近年減少している。



希望する場合は抽選となる。病室や経済状況などの特別な事情がある場合を除いて、2年目以降の入居を希望する人数は、2011年度から3月31日までの1年間で、次年度も入居を希望する人数は、2011年度に行われた募集では48倍に低下。13年間は2.9



ルポ

平砂学生宿舎の未改修棟8、9、10、11号棟は、住環境が劣悪だとされておりの学生の間で「フラム」と呼ばれている。中でも10号棟の1階は特に環境が悪く、フラム街の最上級という意味で「グラウンドフラム」と呼ばれる。本紙記者が平砂10号棟1階に住むIさんの部屋を訪れ、現状を見た。

(油布知夏、森脇慎二)

棟の玄関を抜ける中に入ると、廊下には外から入ってきた落ち葉に紛れて虫の死骸が転がっている。気温は外と変わらないため、冬はシャワーを浴びて部屋に戻る間に体が冷えてしまうという。前年は改修棟に住んでいたIさんは、「廊下で寒さを防げないためか改修棟より室内も寒く感じる」と話した。部屋に入る際、奥に積み重ねられた本棚が目に入りました。部

不満はあるが安さ魅力

の面積は8・60平方メートルと比較的狭くないが、形はいびつな五角形で使いづらい。Iさんは部屋の角に備品の勉強机を置き、その上に本棚を積み重ねて空間を有効活用している。

「部屋は備品のベッドと机でほぼ占められていて。机に本棚を置いてしまったことあり、落ち着いて勉強できない場所はない。勉強する時は喫茶店などに行く。宿舎では寝起きするだけで、日中はほとんどいない」とIさんは語った。しかし、室内の環境は予想より悪くはなかった。グラウンドフラムは湿度が高いと言われるが、Iさんは「掃除を定期的に気にならないようにした。一方、部屋と違い共用



ゴミ箱の中には料理の残飯が放置されていること (3月9日) = 森脇慎二撮影

スペースの環境を一人で改善するのは難しい。Iさんが一番不満を感じているのは補食室だ。1階には補食室が無いから、調理の度に調理器具を持って2階の補食室まで階段を上るのはおっくうな上、衛生環境も悪いという。実際に見に行っ

たが、床が黒ずんでおり汚い。換気が不十分なのか、鼻を刺すような異臭がした。Iさんは「改修棟に住んでいた時は補食室がよく自然にできた。今は自室で調理できるインスタント食品に頼ることも多い」と語る。「世界中を旅行したいと考えており、費用を確保するために家賃の安い宿舎に住みたかった。可能な限り改修棟に住み続けたいが、確実に抽選に通らなかつたので、倍率の低い未改修棟に申し込んだ」とIさんは話した。家賃の安さゆえ、多少の暮らしているには目をつぶっている。



ウォーク大学前通り店 高野悠司さん

宿舎にもっと安心感を

不動産会社の関係者は、学生宿舎についてどのような印象を持っているのか。株式会社「ウォーク」大学前通り店の高野悠司さんに聞いた。(聞き手・森脇慎二)

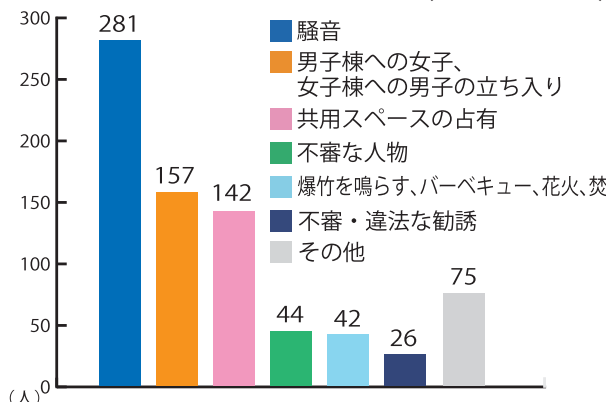
入学直後から宿舎ではなくアパートに住むため部屋を探しに来た学生になぜ入居をやめたのか聞くと、インターネットなどで宿舎の情報や写真を目にしたことが理由のようだ。宿舎に住んでいた学生がツ

の改修を進め、5年間で26棟を改修した。当初は残りの棟を後の5年で改修する予定だったが、財政が悪化し実施が困難になった。そのため、老朽化が進んでいるものの未改修の棟が25棟残っている。

しかし、改修することで生じる問題もある。学生生活課が13年12月に学群生2424人を対象に実施した「学生宿舎整備計画に関するアンケート」によると、宿舎の賃料は3万円以内で、「入居したい」と答えた243人を上回った。入居を希望しない理由の多くが「部屋が狭い」で、他にも「共用キッチンが不満」「古い」「汚い」などが見られた。

「宿舎の改修は未定」アンケートでは「未改修棟を早く改修すべき」との声もあったが、学生生活課によると現在、宿舎棟を改修する予定は無いという。筑波大では09年から宿舎

学生宿舎及びその周辺で見かけた、あるいは感じた迷惑行為 (複数回答可)



「騒音」と答えた学生の数は、回答者の約半数である。81人が「騒音」と答えた。更に157人が「男子棟への女子、女子棟への男子の立ち入り」142人が「共用スペースの占有」などとした。

学生宿舎管理事務所が発行する「学生宿舎入居者心得」では「男女相互の建物内へ立ち上った」とある。また、16年3月までは浴場の存続は確認されたが、それ以降は業者が撤退を求められた。業者は「シャワーよりも」料金が「高い」という。大学側は「温度調節ができて」浴場の存続を求めており、同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

「騒音」などマナー悪い

人でも多く、「深夜・早朝の集会」が93人、「扉の閉閉」が60人、「オーディオ機器」が20人と続いた。共用スペースでのマナーの悪さを指摘する声も目立った。特に不満が多かったのが補食室で「皿や調理器具が置き去りにされている」「生ゴミの放置により臭いが発生している」などの声があった。また、補食室以外でも、「廊下にゴミや私物が置かれていない」「トイレが汚れている」「廊下でたばこを吸う人がいる」などの意見があった。

平砂共用浴場の厳しい状況 本紙は昨年12月、平砂共用浴場で平成25年度に多額の赤字が出ていたことを報じた。

原因は利用者の大幅な減少。学生生活課によると現況は、16年3月までは浴場の存続は確認されたが、それ以降は業者が撤退を求められた。業者は「シャワーよりも」料金が「高い」という。大学側は「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

学生からは浴場に対して「汚い」「営業時間が短い」(シャワーよりも)料金が「高い」「温度調節ができていない時がある」などの声があった。また、「14年同課では2月、検討委員会を立ち上げた。担当者は「現状のままでは廃止はほぼ確実。存続のため、料金の値上りも多かつた。」

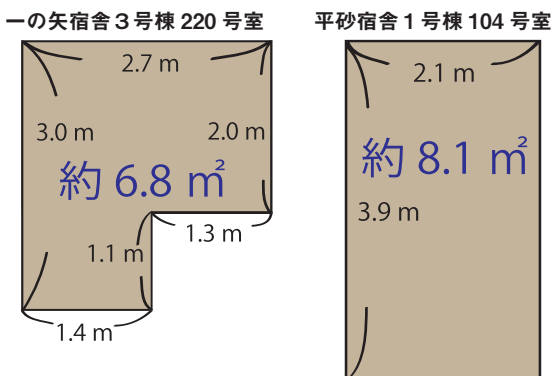
狭さに不満

「住環境の差不公平では」

全学学類・専門学群代表者会議(全代会)が実施したアンケートでは「部屋が狭い」と不満を持つ学生が多いことが分かった。今回、学生生活課と学生宿舎管理事務所の許可を得て、部屋の広さを実際に測定。宿舎の住み心地を検証した。(小野憲司、新田明夏)

■公式資料の記載面積下回る

大学が発行する「学生宿舎案内パンフレット」によると、宿舎の単身部屋の面積は「約10平方メートル(約6畳)」と記載されている。今回、測定した部屋は空き部屋となっていた平砂学生宿舎1



宿舎2部屋の面積測定結果

号棟104号室、同7号棟409号室、一の矢学生宿舎3号棟220号室の3部屋。メジャーを使い測ったところ、面積はそれぞれ8.1平方メートル(約4.9畳)・7.1平方メートル(約4.1畳)・6.8平方メートル(約4.1畳)で、いずれもパンフレットに記載されている10平方メートルより狭かった。学生生活課の担当者は「一面で、どの部屋の広さも約10平方メートル以上あるが、今回の測定で一の矢3号棟220号室は7平方メートルを下回った。同条例が定められたのは2000年で、学生宿舎が建設されたのは1975年ごろであるため条例違反ではないが、宿舎の部屋の広さが最低水準であることは事実だ。増築・改築の際には床面積を7平方メートル以上にする必要があるが「筑波大学の宿舎の改修は規模が小さいため、不公平な気もする」と話した。

視点

記者は、大学に入学して1年目は一の矢宿舎の改修棟・単身部屋、2年目は同宿舎の未改修棟・2人部屋に住んだ。単身部屋への入居前に見た公式資料には「10平方メートル(約6畳)」と書かれていたが、住んでみると自分の想像していた「6畳」よりもかなり狭かった。Wの水圧が低いなどの不満も聞かせる。住環境を改善するには部屋の温度管理も重要だ。もとも宿舎の部屋にはエアコンが付いていないため、1年契約でエアコンをレンタルする学生が多い。しかし、入退去の度にエアコンの設置工事を繰り返すのは合理的ではない。多少家賃が高くなっても、部屋にエアコンを備え付けるべきだとも思う。

「良好な勉学の環境」を整えて

大学が発行する学生宿舎案内パンフレットによると、宿舎の目的は「学生に良好な勉学の環境を提供し、自律的な市民生活を体験させる」ことだが、現在の宿舎でそれが達成されているとは言い難い。現状のままでは、宿舎の気温低下が進むのは避けられないだろう。大学側は何らかの手を打つべきだ。(添島章田 生物学類3年)



脳波を検知し、難病「筋萎縮性側索硬化症」(ALS)の患者の意思を読み取る装置の開発を進める筑波大学のルトコフスキ・トマシユ講師(シンス)情系。同講師は、患者の聴覚だけでなく、視覚、聴覚への刺激も利用し、患者との「会話」を実現しようとしている。

耳・目・皮膚刺激し「会話」 ALS患者の負担軽減へ

トマシユ講師による「会話」を利用した研究では、さまざまな音を鳴らすことで、患者が文字で自分の意思を伝えることを考えているという。例えば、患者が「さかな」と伝達したい場合、

「あ、かさ、た、な、は、ま、やら、わ」の音をスピーカーから鳴らす。「さ」という音で脳波が反応した場合、さらに実行の「さ、し、す、せ、そ」の音を鳴らす。このように脳波を測り、「さ」の音で患者が訴えた行のなかで患者が訴えた意を探す。これを繰り返して、患者が求める単語を探ることが可能になるという。トマシユ講師は脳波の反応から車椅子を動かす実験も行っている。例えば、患者に上、下、右左の4カ所に光る点のあるパソコンを持たせ、患

の脳波の変化を基に患者と「会話」する装置も研究中。この際、身体に接触せずに患者の聴覚を刺激できる装置、空中超音波触覚ディスプレイ(AUTD)の活用は同講師の強みだ。この装置は、多数の超音波スピーカーで構成され、空間中に超音

波の強弱の分布を作ることができ。この空間の中では、患者は皮膚に刺激を感じ、その際の脳波を基に患者の意思を読み取れる。こうすれば、患者の体に刺激を与える機器を長時間取り付けるより、患者の負担を軽減できる。

昨年、バケツに入った水を頭からかぶるアイズ・バケツ・チャレンジが世界で流行し、社会現象化した。その目的は、ALSの患者の支援だった。米国ではブッシュ前大統領や歌手のレディー・ガガさんも参



脳波を検知する装置とトマシユ講師(4月1日、TARAセンターで)

加。報道によると昨年8月末の時点でアメリカのALS協会へ集まった寄付金が約1億ドル(約120億円)に達した。日本でも、ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥・京都大学教授が



元ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント社長 土岐大介さん

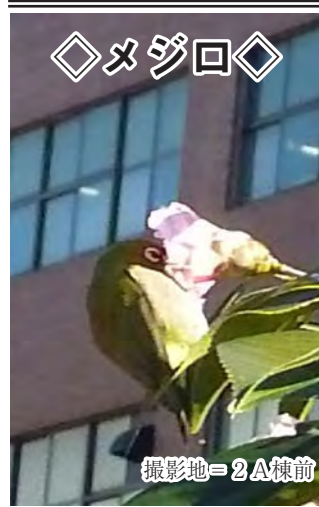
卒業して30年、必死に走り続けたら、ゴールドマン・サックスグループに21年も勤めて、更にグループ会社のゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントの社長を8年半も務めさせていただいた。学生時代はやんちゃで、卒業が1カ月遅れたため、アメリカの大学院に留学した。そこからよく成り上がったと自分で思う。僕は学生時代、最初数年の授業についていけず落ちこぼれ、「大学で何をやるのだろう」と悩みながらバイトと麻雀ばかりしていた。3年次に受けた「経営シミュレーション実習」という授業で、仮想会社の社長を僕が担当した時が一番ワクワクした。その治療法が注目を浴びるALS。同講師の挑戦がALS患者の希望の光となるのか、注目したい。(林健太郎 社会学類3年 写真も)

夢を目標に変え実現 やりたいこと極めて

その時から、早くビジネスの世界に入って、アメリカと日本を飛び回るビジネスマンになりたいと思い始めた。学生時代は自分の人生をどうしようか悩んでいたが、この決意が他の人と違っていた。自分らしい生き方を生かすきっかけになった。アメリカの大学院で、入退去の度にエアコンの設置工事を繰り返すのは合理的ではない。多少家賃が高くなっても、部屋にエアコンを備え付けるべきだとも思う。大学が発行する学生宿舎案内パンフレットによると、宿舎の目的は「学生に良好な勉学の環境を提供し、自律的な市民生活を体験させる」ことだが、現在の宿舎でそれが達成されているとは言い難い。現状のままでは、宿舎の気温低下が進むのは避けられないだろう。大学側は何らかの手を打つべきだ。(添島章田 生物学類3年)



この写真は、メジロが椿の花に頭を突っ込んで、蜜を吸っている場面を運良く収めたもの。メジロは甘いものが大好きで、柿やリンゴにミカンなどの果物や、桜、梅、そして椿といった花の蜜を好む。人間が季節の花を目で見ると一方、メジロも蜜の味を楽しんでいるのだらう。(写真・文 今田創、比文 3年、野生動物研究会)



撮影地=2A棟前

記者の声



原啓一郎

本紙学芸面で昨年7月から5回、企画「絶対音感」を連載した。筑波大学の音楽・演劇系団体の公演の様子や練習の内幕、更に演奏者・奏者の生の声を伝えるものだ。取材したのは、筑波大学吹奏楽団▽フューチャー・トコロ・キーン▽筑波大学管弦楽団▽ときめき太鼓塾▽劇団竹蜻蛉……の6団体。記者として学ぶことの大きかった一連の取材を振り返ってみたい。

取材で大きく印象付けられたのは、どの団体も学生が自ら考え、活動していることだ。例えば、吹奏楽団や管弦楽団などではプロの奏者が指導するが、決して「からたまでは指示しない。そのアドバイスを基により良い演奏を模索するのはあくまで団員たちだ」と。吹奏楽団の練習を取材していた時、演奏技法について団員同士が激しく議論する様子も見た。お互いが一人の「演奏家」だから、自分の音楽には譲れないプライドを持っている。それ故の対決も残っている。

また、先輩の後輩への手厚い指導も目立っていた。同団体には後輩の楽譜が無く、先輩が後輩に口伝や動画で音を教えていた。「この演奏会を私は引退する。後輩のために何かを残したい」と楽譜に向き合う彼らもいた。

芸術系サークルの熱い思い

団体の枠を超えたステージを

ではある女性団員が、篠笛の楽譜を手書きで作った。同団体には篠笛の楽譜が無く、先輩が後輩に口伝や動画で音を教えていた。「この演奏会を私は引退する。後輩のために何かを残したい」と楽譜に向き合う彼らもいた。

オーケストラやロックバンド、アカペラ、和琴やフォルクローレなどの民族楽器まで幅広い。音楽以外にも、演劇やミュージカル、ダンスなど多岐にわたる。これらの団体が同じステージに立てば、新たな調和を生むことは間違いない。

筑波時評

今年4月より、パートタイム労働者に関する改正法が施行された。厚生労働省のホームページによれば「この改正は、『パートタイム労働者の方々の公正な待遇を確保し、また、納得して働くことができるように』するものである。具体的には、職務内容及び人事異動など業務内容及び人事異動など差別的取扱いを禁止する

パート労働者の待遇改善か 差別感情の「改正」が必要

イム労働者と正社員との差別的取扱いを禁止する

星野 豊 准教授

(民法、信託法、学校法)

主著として『信託法理論の形成と応用』『信託法』（信山社）『学校トラブル』『学校のための法律救急箱』（学事出版）など。

ことや、事業者が労働者を雇用する際に待遇などについて説明を行うことが、主な内容となっている。

求めている。したがって、正社員との待遇をパートタイム労働者と同程度に引き上げれば、改正法との関係では「公正な待遇」となるわけである。次に、改正法は、職務内容や人事異動制度に差別がある場合には、正社員とパートタイム労働者との差別的取扱いを禁止していない。また、改正法が事業者に対して「説明」を行わせる以上、説明を受けて就職した労働者は、その内容に「納得」として法律上評価されるべきであり、この効果を活かす必要がある。

まず、改正法は、パートタイム労働者と正社員との「差別的取扱い」を禁止しているだけであり、労働者としての待遇を向上させること自体は、この効果を活かす必要がある。

イラスト＝姉崎信（心理学類3年）

法律は、人々を規律するものとして制定されているように見えるが、現実には、規律されるはずの人々から「守って」もらえない限り、本来の効力を発揮できない。したがって、本気で「改正」が求められるのは、人の心に潜む暗い部分であり、このためには、法律以外のあらゆる方向からの働きかけが、長い時間をかけて続けられていく必要がある。

反射鏡

筑波大独自の授業制度

筑波大学では1時限の授業を75分としており、90分授業が一般的な他大学とは異なる。一方、筑波大にはかつて三学期制が敷かれていたが、平成25年度から他大学と同じ二学期制に移行。それに伴い、一つの学期をA、B、Cに分ける「モジュール制」が導入された。これらことから筑波大はどのように考えているのか、中央図書館前と第二エリア食堂で聞いた。

【人文4年・女性】 75分授業がA・Bモジュールのみで終わってしまつと、長い時間が必要な実験の授業時間が短く、回数も少ない。 【工学2年・男性】 他大より短い1時限75分ほどの授業が終わる学類 という授業時間は集中力がある学生と予定が合わないの 続への良いと思う。 【社学4年・女性】

【人文4年・女性】 75分授業がA・Bモジュールのみで終わってしまつと、長い時間が必要な実験の授業時間が短く、回数も少ない。 【工学2年・男性】 他大より短い1時限75分ほどの授業が終わる学類 という授業時間は集中力がある学生と予定が合わないの 続への良いと思う。 【社学4年・女性】

私のお国自慢

筑波大学には国内の場合、北海道から沖縄までさまざまな地域から学生が集まっている。自分の出身地の魅力やおすすめの名産品について、中央図書館前で聞いた。(姉崎信 心理学類3年、佐々木 優 知識情報・図書館学類4年)

【物理4年・男性・北海道】 緑が多く、日本三名瀑のカニ、いろいろな海の幸 一つといわれる袋田の滝があるなど自然が豊か。水戸市市営公園は梅の名所として知られており、毎年梅まつりが開かれています。 【医科学2年・男性・千葉】 キッコーマンやヤマサの工場が近くにあり、最寄り駅を降りると醤油のおいしさがする。蛇口をひねると醤油が出てくるんじゃないかと思つた。 【地球3年・男性・茨城】 油が出てくるんじゃないかと思つた。

【人文4年・男性・山梨】 一番の自慢は富士山。県庁資料館は、人生一度は行っておきたい場所。甘日市にある蔵酒神社には、物言いは、やはり果物。桃もぶどうもみずみずしくおいし。リニア中央新幹線が開通したら、ぜひ遊びに来てください。 【心理4年・男性・大阪】 大阪の人はよくしゃべるので、話が盛り上がりやすい。安くておいしい店が多く、お好み焼きやたこ焼きなど「食い倒れの街」としても有名。また、海遊館という水族館はデートに最適で、夕日を見ながら観覧車に乗ればとてもロマンチック。

【人文3年・女性・佐賀】 吉野ヶ里遺跡は有名な弥生時代の遺跡で、県外から多くの人が訪れる。佐賀県は米どころとしても知られていて、「さがびより」は3年連続で最高ランクの特A評価を受けている。ぜひ食べてみてください。

社会学類の授業は2時限連続で行われることが多いが、長すぎる。1単位の修得に要する授業時間数が他大学に比べて90分長いのは少し不公平な気がする。また、1時限で終わる授業と2時限連続の授業が混在しているため、時間割の組み方が難しい。 【社工2年・男性】 90分では終わらない内容を75分授業の2時限連続で扱えるのは良いが、A・Bモジュールに授業が集中するために、自主学習の時間を確保することが困難だ。 【比文4年・女性】 テスト期間が学類によって違つたので、テスト前にサークル活動が休みになる期間がバラバラになる点は、やっかいだと思う。学類によつてCモジュールには授業が無いというのはいふ公平ではないか。 【教育3年・女性】 教育学類ではCモジュールに授業が少ないため、勉学に支障はない。

【知能図書4年・女性・広島】 原爆ドームと広島平和記念資料館は、人生一度は行っておきたい場所。廿日市市にある蔵酒神社には、物言いは、やはり果物。桃もぶどうもみずみずしくおいし。リニア中央新幹線が開通したら、ぜひ遊びに来てください。 【心理4年・男性・大阪】 大阪の人はよくしゃべるので、話が盛り上がりやすい。安くておいしい店が多く、お好み焼きやたこ焼きなど「食い倒れの街」としても有名。また、海遊館という水族館はデートに最適で、夕日を見ながら観覧車に乗ればとてもロマンチック。

【知能図書4年・女性・広島】 原爆ドームと広島平和記念資料館は、人生一度は行っておきたい場所。廿日市市にある蔵酒神社には、物言いは、やはり果物。桃もぶどうもみずみずしくおいし。リニア中央新幹線が開通したら、ぜひ遊びに来てください。 【心理4年・男性・大阪】 大阪の人はよくしゃべるので、話が盛り上がりやすい。安くておいしい店が多く、お好み焼きやたこ焼きなど「食い倒れの街」としても有名。また、海遊館という水族館はデートに最適で、夕日を見ながら観覧車に乗ればとてもロマンチック。

【人文3年・女性・佐賀】 吉野ヶ里遺跡は有名な弥生時代の遺跡で、県外から多くの人が訪れる。佐賀県は米どころとしても知られていて、「さがびより」は3年連続で最高ランクの特A評価を受けている。ぜひ食べてみてください。

全国高校サッカー 決勝進出両校の主将が入学

「本田圭佑先輩を超えたい」



優勝 星稜高校出身

鈴木大誠 (体専1年)

全国高校サッカー選手権のメイトと喜びを爆発させた表彰式。吸い込まれるような青空に、日本一のチームの主将として、優勝カップを高々と掲げた。待ちに待った悲願の瞬間。星稜高校のチーム

チームに欠かせない存在となったが、入学当初は違った。「全国大会で活躍する選手になりたい」と出身地の奈良を離れ、遠く金沢まで来たにもかかわらず、一番下のグループからのスタートだった。「人生で一番悔しかった。休日返上で筋肉トレーニングに勤しみ、ボールを蹴り続けた。ためめ努力で、粘り強い守備を身につけた。だが、高校時代に伸びたのは技術だけではない。「他の人の意見を聞くこと」や「周囲への気配り」を監督に諭され、「人として大きく成長した」と感じている。「高校に入ったころは我が強く反抗的で、人の考えを受け入れようとしなかった」と振り返る。監督にも自分の考えと違えば、反発することもあった。だが今は人の話に真摯に耳を傾ける。さまざまな意見を

取り入れ、視野を広げるようになった。守備力には自信があるが、「今の自分に欠けているのがパスをつなぐ意識。それを身につければ、プロに近づけるかもしれない」と感じている。筑波大の「ディフェンダーの選手でも攻撃しようとする意識が強い」サッカーに魅せられ、入学を決意した。周りには足元のテクニックに優れた選手が多い。特に鈴木大誠はパスを回す技術が高く、「自分に無いものを持っている。うらやましい存在」だ。大学の目標は、プロで活躍できるほどの技術を付けることだが、更に先を見据えている。「星稜高の先輩、本田圭佑さん(イタリヤ・ACミラン)を超えたい」と意気込み、日本一に輝いた副将が、日本一、そして世界一の選手への第一歩を踏み出した。

1月12日、全国高校サッカー選手権決勝。石川県の星稜高校が、群馬県・前橋育英高校を下し、日本一に輝いた。そしてこの春、両校の主将が蹴球部に入った。昨年、関東大学リーグ2部降格という苦汁をなめた名門の再興へ、キーマン2人に決意を聞いた。(森脇慎二社会学類3年、深作歩美II生物資源学類2年)

全体的な攻撃を組み立て、守備を支える。同世代の選手を引っ張ってきた。プロ選手を何人も輩出する強豪、前橋育英高校で1年生からエース番号「14」を背負い続けた。各年代別の日本代表に選ばれており、2013年のU-17(17歳以下)W杯では日本代表の主力として活躍。昨年8月には一世代上のU-19代表にも「飛び級」招集された。

パスサッカーを自身のスタイルとして確立してきた筑波大。そのスタイルに最も合った存在だ。自身の強みを、「ゲームを読む力」だと自負する。試合中、相手の攻撃の身を痛むことも。ピッチの中心で、



準優勝 前橋育英高校出身

鈴木徳真 (体専1年)

「相手を圧倒するプレーを」

だが決して、順風満帆なサッカー人生だったわけではない。中学1年生から2年生に上がる時には「何をやってもうまへいかな」スラム

だがその度に悔しさを力に変えて成長してきた。どんな時も、自分にとって足りないものを見つけ、トレーニングで補った。目標とする遠藤保仁(ガンバ大阪)やシャビ(スペイン・FCバルセロナ)のように、チームの中心でタクトを振る選手を目指し、ひたすら練習に取り組んだ。年代別の日本代表に選ばれたようになった今でも、努力は惜しまない。大学サッカーを「攻撃の切り替えが高校よりも速く、パワーのある選手が多い」と感じ、それに対応しようと走り込みを重ねる。

日本選手権

サントリーに屈し初戦敗退 完封負け寸前 意地見せる



最後の攻撃でゴールラインを目指す山本(2月8日、秩父宮ラグビー場) = ラグビー部提供

アスと対戦し、7-62で敗退した。前半序盤は両チームが攻めを展開し、接戦となったところが12分、筑波大は攻撃中のミスでボールを奪われトライされると、試合の流れはサントリーに。15分18分、23分、26分にトライを決められ、前半を終える。後半に入ってもサントリーの勢いを止めることができず、5本のトライを決められ突き放された。0-62と完封負け寸前で迎えた後半40分、筑波大はこの大会を最後に卒業する4年生が最後の意地を見せ、7点を返したところで試合は終了したが、大学生とは圧倒的な力差があると言われる社会人チームのサントリーに、一矢を報いた。

ラグビー

日本選手権が2月8-28日に秩父宮ラグビー場(東京都港区)などで行われた。1月の全国大学選手権で準優勝し出場権を得た筑波大は、1回戦でトップリーグ5位のサントリーサンゴリアスと対戦し、7-62で敗退した。

ヨーロッパオープン・ソフィア

津金・内尾が優勝 2年女子が大躍進

柔道

内尾は初戦から準決勝まで一本勝ちで駒を進め、決勝は黒木美晴(環太平洋大学4年)との日本人対決。指導を2つ先制され追う形となったが、残り30秒過ぎに内股で有効を取り優勢勝ちを収めた。これまで未勝利だった選手を抑え、シニアの国際大会初優勝を飾った。

津金は「決勝で戦ったシュレンジャーは昨年筑波大に練習に来たことがあったが、その時は一回も投げることができなかった。この日も余裕はなかったが、投げることができてよかった」と語った。(新田明夏)

米原は「立ち上がりは良かったが、第二、第三セットは重要な場面で自分のテニスが出来なかった」と決勝を振り返った。(田中開)

米原準優勝 テニス

関東学生新進選手権が2月4-19日にかけて、慶應義塾大学日吉キャンパス(横浜市港北区)などで行われ、女子シングルスで米原美穂(体専2年)が準優勝を挙げた。

ヨーロッパオープン・ソフィアが2月7-8日にブルガリアの首都ソフィアで行われ、女子52kg級で内尾真子(体専2年)、同63kg級で津金恵(同2年)が優勝した。同大会はグランドスラム、グランプリに次ぐ規模の国際大会の一つ。全日本柔道連盟(東京都文京区)は今年大会を含む欧州遠征を、8月の世界選手権力ゲで筑波大を絶対1部に復帰させる。自信に満ちた目でそう宣言した。

三谷教授の研究

科学で折り紙の限界に挑む

美術展で約50作品展示

コンピュータを使って折り紙の設計・制作を行う三谷純教授(シス情系)の研究が注目されている。3月に行われた美術展では同教授の作品が展示され、来場者を驚かせた。

三谷教授の専門はコンピュータグラフィック。コンピュータ上で折り紙の完成予想図や展開図を作るソフトウェアを開発した。印刷した展開図から、折るのが難しいとされ



展示ブースの前で作品を持つ三谷教授(3月22日、茨城県つくば美術館で)

ていた曲面を持つ作品などを次々に制作した。多くの人から利用できるよう、ソフトウェアはインターネットで公開されている。3月14-22日に茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開催された「第1回つくばメディアアートフェスティバル」では、約50の作品を展示。科学と芸術を融合させた「メディアアート」の普及に貢献した。特に注目を集めたのは、コマのような形が20個連なった高さ約70センチのタワー。守口市から来た60代の女性は「一枚の紙で作られているとは想像もつけない。折り紙も奥が深いと感じた」と話していた。

三谷教授は「コンピュータグラフィックスの立体的形状設計技術を折り紙に応用し、見る人を驚かせる芸術作品を作ることができた。これからも研究を続けて折り紙の限界に挑戦したい」と語った。

筑波能・狂言研究会の卒業公演「能・狂言研究会卒業公演 集大成を披露する」が、2月28日にノバホール(つくば市吾妻)で行われた。15人の会員が出演し、全11演目を披露。会場を訪れた観客は、洗練された舞と謡を堪能した。本公演で松浦大輔さん(平成26年度数理物質科学研究科単位取得退学)と谷島愛久美さん(同年度教育研究科修了)が同研究会を引退した。

能・狂言研究会卒業公演 集大成を披露する



「魚説法」で主人公の僧を演じる谷島さん(右)(2月28日、ノバホールで)

お経を唱えられない僧がお堂の供養を頼まれ、魚の名前を唱えてごまかそうとする滑稽話。僧が飛び魚のまねをして細かく跳ねながら消えていく場面では、大いに観客の笑いを誘った。谷島さんは「一番好きな演目を最後に演じられて良かった。後輩に歴史あるサークルの伝統を引き継いでほしい」と話した。会場を訪れた大原奈々さん(障害2年)は「演者の全身から緊張感が伝わってきた。もっと能を知りたくなってきた」と話した。(山野辺拓美)

ホルンソロコンサート

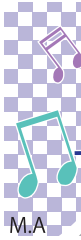
柔らかな音色で魅了

筑波大学管弦楽団のホルン奏者による「ホルンパトリオコンサート」が、2月14日にアルスホール(つくば市吾妻)で行われた。ホルンは、カタツミのような渦巻き形の管が特徴的な金管楽器。オーケストラではあまり目立たないホルン奏者が、情緒豊かな演奏で観客を魅了した。

同コンサートには、管弦楽団でホルンを演奏する団員と、同団のOB・OGらが出演。W・A・モーツァルト作曲「ホルン協奏曲第1番第一楽章」などのクラシック曲やアニメソング「となりのトトロ」の曲目を全14曲披露した。来場者はホルン特有の柔らかな音色にじっくりと耳を傾けていた。

友人の演奏を聴きに訪れたという佐藤愛さん(メ創4年)は「ソロコンサートに来るのは初めてだったが、予想以上に迫力があり驚いた。特に、最後のホルン16重奏は圧巻だった」と満足そうに語った。(井口彰)

絶対音感



ミュージカル集団ESSASSAの第31回公演「Les Misérables」が、3月7-8日に3A棟で行われた。2幕構成で、公演時間は約155分。2日間(計4回)上演され、団員の演じる「全力」で明日を指す人々の姿は会場を訪れた観客を魅了した。

「Les Misérables」は、フランス革命の時代を生きたバリの人々を描いた物語だ。原作は過去の罪を隠しながら成功を遂げていた男性、ジャン・ヴァルジャン(折間悠二)

明日への希望伝える演技

教科1年)が主人公。しかし今回は、ヴァルジャンが父親代わりを務める少女コゼット(助川まりな)と恋に落ちる学生、マリウス(若林佑太)の2人が語り手となり、物語は進んでいく。1幕では自由を求めて政府に蜂起した学生たちを、2幕ではヴァルジャンの過半を描いている。

1幕は、革命をもくろむ学生組織のリーダーの女性アンジョルラス(堀内菜穂)芸専4年)の力強い歌声で始まった。赤い衣装を身にまとったアンジョルラスが登場すると、彼女の闘志が伝わり、フランス革命時代の



ほほ笑み合い歌う助川(左)と若林(3月8日、3A棟で) 原啓一郎撮影

霧雨を醸し出した。そして学生たちは、「自由を求めて政府軍と戦う。響く銃声の中、マリウスとコゼットは出会い恋に落ちる。だが戦いの時代ゆえ、その後、二人が会うことは難しかった。そこでマリウスはコゼットに恋文を書き仲間の少女、エポニーヌ(道下悠里)に託す。

しかしエポニーヌもまた、マリウスに思いを寄せた。それでも愛する人のため、危険を承知でエポニーヌはコゼットに手紙を届ける。愛する人に振り向いてもらえず、孤独に浸るエポ

ニーヌは、まわりの「Les Misérables」に哀れな人々の一人だ。2幕では、ヴァルジャンの過去が明かされる。ヴァルジャンはその昔、パン一つを盗んだ罪で19年も服役した上、仮出獄の際にも盗みを犯していた。過去が明るみに出ないよう名前を変えて、警察から逃亡。娘代わりのコゼットにさえ過去を隠してきたが、コゼットを心から愛するマリウスに彼女を託し、罪を償う決心をした。

2幕には、宿屋での宴会など、にぎやかなエピソードもある。少女時代のコゼットの哀れさが余計に際立っていた。また幼かったコゼットが、預けられた家で奴隷のように扱われる場面

では、幸せな生活を夢見るコゼットの声は切なく響く。すずり泣きながら「暗くて怖い」と歌うなど、彼女の哀れさが観客の胸を打った。公演のテーマは「明日を指して全力で生きる」(伝説の2つ)。テーマ通り、団員たちの表情からは明日を指す気迫が伝わってきた。団員たちも、この物語に描かれている人々のように全力で明日を目指している。仲間と共に一つの目標に向かう登場人物の姿は、団員たちの姿と重なって見えた。哀れで切ない物語ではあるが、明日へつなげる希望の光を感じさせる公演だった。

(廣田里穂)人文文学類2年、20面に関連写真

筑波大学 出版会 新刊案内

利益相反とは何か

「どうすれば科学研究に対する信頼を取り戻せるのか」 新谷由紀子 著

医療関係者や研究者の倫理観の欠如や認識の不足が引き起こした問題が、近年注目されている。日本社会では、組織の利益や存続が優先されるあまり、「利益相反」が深刻化するという特徴がある。だが、「利益相反」が何を正しく理解している医師、研究者や大学教員は極めて少数だ。本書では、活発な研究を行えば生じることのある「利益相反状態」を、「避ける」のではなく「適切にマネジメントする」ことの重要性を、具体例を交えて解説する。

著者は本学利益相反・輸管理マネジメント室准教授。A5判並製、約160頁。3月20日刊行。2700円十税。

森林学への招待

中村徹 編著

『草原の科学への招待』に続く第2弾。増補改訂版では、2010年に刊行した初版に2章を追加。また1章分を差し替え、口絵も追加した。世界的にバイオマス発電が注目される中、過剰な伐採や異常気象などの問題が多発。森林の機能性と重要性に関心が向き始めた。世界有数の森林国の日本では、森林は人々の生活に密着している。専門家だけでなく、幅広い読者にお薦めしたい一冊。平成27年度総合科目II「森林」教科書。編者は本学名誉教授。A5判並製、約180頁。3月20日刊行。2200円十税。



卒業・修了制作展 来場者でにぎわう 「平成26年度筑波大学芸術専門学群卒業制作展・博士前期課程芸術専攻修了制作展」が、2月3-22日に茨城県つくば美術館(つくば市吾妻)で開催された。は市吾妻で開催された。芸術専門学群の学群生や芸術専攻の大学院生らが学生生活の集大成として作り上げた作品が展示され、多くの来場者でにぎわった。来場者の注目を集めたのは城野紗貴さん(平成26年度人間総合科学研究科修了)の「たからもの作り」という作品。中央に描かれたメリーゴーランドが印象的な洋画で、冬につくば駅前に設置されているメリーゴーランドから着想を得た。最近ではあまり見かけなくなった屋上遊園地を題材にするので、時間の移り変わりを表現した。ほかにも、ケント紙に糸で刺しゅうして材質の違いを表現したものや、さまざまな作品が展示された。宇都宮市から来た女性は「作品から、学生の努力が伝わってきた」と話した。(大西美雨)社会学類2年

サービス充実 賢い図書館の利用法

デザイン=佐々木優 (知識情報・図書館学類4年)



水濡れでカビが発生した資料 (2月23日) = 齋藤優斗撮影

マナー違反 延滞、落書き…

図書館では、利用者のルール違反が問題になっている。附属図書館情報サービス課の副課長の大久保明美さんに話を聞いた。

教員からの希望多数

フレセミ 図書館説明 必修化

今年度から1年生の必修授業「フレセミ」で、附属図書館の利用方法について説明を受けることが必須になった。同セミナーは、新入生に対する生活・勉学の指導が目的だが、図書館での説明を必須とする説明を受けることが必須になった。同セミナーは、新入生に対する生活・勉学の指導が目的だが、図書館での説明を必須とする説明を受けることが必須になった。

多数の蔵書や自習スペースを有する筑波大学附属図書館は、大学生生活に欠かせない存在として多くの学生を支えてきた。5つの附属図書館のうち中央図書館と図書館情報学図書館では、文献を探す上で役立つ講習会の開催に加え、履修相談やレポートの添削も行っているが、それを知らない人も多いという。一方で、資料への書き込みや指定された場所以外での飲食など、利用者のマナー違反が目立ち、図書館の運営の妨げとなっている。あまり知られていない図書館の魅力。それを最大限に活用するために、正しい利用方法を改めて紹介する。(大西美雨、林健太郎、社会学類、齋藤優斗、社会学類、佐々木優、知識情報学類)

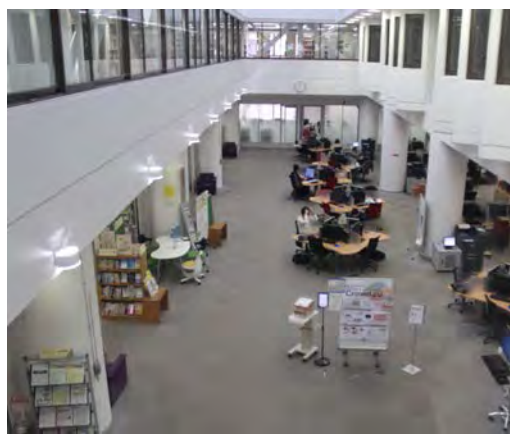
未返却資料1700冊超

資料の延滞や紛失。附属図書館によると、貸出資料の延滞者は2月20日時点で662人。期限を過ぎても返却されない資料は1726冊に上り、うち約100冊は延滞期間が1年を超えている。また資料を返却せずに卒業した学生は中央図書館だけで65人。職員が進学先や勤務先、実家へ連絡し返却を促しているという。

サービス 自主学習を支援

図書館は、本の貸出を目的とした場ではない。学生の自主学習を支援する施設やサービスも充実している。

資料の延滞や紛失。附属図書館によると、貸出資料の延滞者は2月20日時点で662人。期限を過ぎても返却されない資料は1726冊に上り、うち約100冊は延滞期間が1年を超えている。また資料を返却せずに卒業した学生は中央図書館だけで65人。職員が進学先や勤務先、実家へ連絡し返却を促しているという。



中央図書館2階のラーニング・スクエア (2月20日) = 大西美雨撮影

データベース 幅広く提供

研究者、教員が図書館の資料を使う上で、中央、医科学、体育・芸術図書館に設置されている。どちらもネットワークで利用予約することが可能だ。



インタビューを受ける中山伸一附属図書館長 (2月20日、中央図書館の館長室で) = 大西美雨撮影

附属図書館長 インタビュー

図書館が提供するサービスと今後の課題について、筑波大学附属図書館の館長中山伸一副館長(学術情報担当)に話を聞いた。

データベース提供

附属図書館では文献の情報を集めたデータベースを多数提供している。データベースは、論文や過去の新聞記事を検索するサービスも行う。

議論の場としても図書館利用を

近年、授業だけでなく、学生が教員と議論したり、議論の場として図書館を利用している。中山伸一副館長は、「職員の仕事は、資料を手に取ることができない。図書館では話してほしい」と話している。

また、附属図書館各館にある「フレセミ」では、専門の職員が、利用者の求める適切な資料を探し出す手助けをする。課題に使う良い資料が見つからない場合は、ネットの情報を見ても、信頼できるものかどうか判断できるようにしてほしい。

だが、データベースの正しい使い方を知らなければ、膨大な量の文献から必要な文献を探し出すことは難しい。そこで、附属図書館では年に約30回データベースの講習会を開催。講習会では、調べたいテーマに合った適切な文献を絞り込むために、キーワードを言い換えたり掲載された雑誌名を検索するなど、実践的な方法を教えている。

中央図書館 講習会予定

- データベース提供元による講習会
- 要事前予約

会場：本館2階コミュニケーションルーム 定員：14名
日本語論文の探し方 (CiNii) 5月8日(金)、12日(火)、14日(木) 15:15-16:00
外国語論文の探し方 (ProQuest Central) ● 日本語 5月21日(木) 15:15-16:15 英語 5月21日(木) 16:45-17:45
Lexis.com (法律関連データベース) ●■ 6月5日(金) 13:45-15:00
文献管理ツール RefWorks 活用法 ● 6月9日(火) 14:00-15:00
PsycINFO (心理学関連データベース) ● 6月16日(火) 14:00-15:00
まだ間に合う！今更聞けない図書館セミナー 6月18日(木) 16:45-17:45
会場：本館2階集会室 定員：60名
博士論文インターネット公表の基礎知識 6月2日(火) 16:00-16:30

被災地で学生が研修 心のケアの知識 深める



「なかよし広場」で子どもと遊ぶ学生(3月10日、鹿島保健センター) = 災害精神支援学提供

東日本震災の被災者への心のケアなどを学ぶ授業「災害精神支援学」の受講生が3月9-11日、福島県で研修を行った。同研修は授業で学んだ知識を生かし、被災地で経験を深めることが目的だ。震災から丸4年。学生たちは被災地の現状をどう見ているか。研修に同行した。

初日、学生たちは「相馬」を訪問。同施設は、仮設住宅広域としてのケアセンター「なごみ」(福島県相馬市)に健康に関する講座を開いた。学生たちは「なごみ」で実際に精神疾患のある人々と交流したり、アウトリーチ活動に同行。学生たちになごみセンター長の米倉一磨さんは「震災によって今まで表に出てこなかった患のある人々に対する支援も重点的に行っている」と話した。

2日目に学生たちは鹿島保健センター(福島県南相馬市)で行われている「なかよし広場」に参加した。このイベントは、放射能汚染への懸念から屋外で遊ぶのを控えている子どもたちのために屋内で実施。遊び場を提供するほか、保健師などによる育児相談なども行っている。ここで学生たちは子どもたちの遊びに参加。当初、緊張していた学生たちも次第に打ち解け、ボールや積み木で遊び、一緒に歓声を上げた。参加した学生の一人は「屋内でも子どもたちがのびのびと遊んでいる姿を見ては、嬉しかった」と話していた。

続いて学生たちは、原発事故の影響で患者や医師など、病院全体が避難を余儀なくされた雲雀ヶ丘病院(同市)を見学。震災当時のままの病棟などを見た後、同病棟の看護部長、鎌田宏さんから震災当時の様子について話を聞いた。鎌田さんは「寝たきりの患者の搬送に路線バスが使われ、一時避難所の暖房設備が不十分になるなど、患者は過酷な状況に置かれていた」と説明。「それまで病院ごと避難するという想定をしたことがなかった。今後は避難方法をマニュアル化したい」という鎌田さんの言葉に、精神科医に興味があるという鈴木夏帆さん(医学2年)は「被害の大きさを実感すると同時に、現地で医療を担う人々の熱意を感じた」と話していた。

学生たちは最終日の11日、相馬市の追悼記念式典に参加。震災発生時刻の午後2時46分に黙とうをささげた。被災地研修の責任者である高橋祥友教授(医学医療系)は「何年経っても震災への関心が失われないよう多くの人が被災地に赴き、見守ることが必要だ」と語った。

庭球部がイベント開催 テニス通し交流深める

筑波大学が主催するテニスの世界大会(つくば国際テニストーナメント)が3月28日から4月4日に開催された。5回目となる今回、筑波大の硬式庭球部は大会を盛り上げようと、さまざまなイベントを開いた。3月22日には「フラインドテニス講習会」を筑波大武道館で実施。9人の参加者が全国から集まり、部員と共にテニスを楽しんだ。同大会は、ウィンブルドン選手権などにつながる若手の登壇。2010年に始まり、年々知名度を上げている。

フラインドテニス講習会では、硬式庭球部員が参加者の補助に付き、テニスを通じて交流を深めた。フラインドテニスは、動く音が出るボールと通常の小さいコートを使う、視覚障害者のための競技。部員は「フラインド」と声をかけたり、全盲や弱視の参加者に打球の行き先を教えるなど、参加者を励ましていた。イベントの後半は参加者と部員が組んでダブル

スの試合を行った。参加者は講習会の成果を生かし、ラリーを続けるなどのプレーを見せた。石岡市から参加した吉田初江さんは「フラインドテニスは視覚障害者にとって、浮いた球を打てる唯一のラケットスポーツ。コートを思い切り走り、ラリーができて楽しかった」と話した。(田中開、20面に写真)

作品を募集

筑波大学生が企画する初めての写真コンテスト「筑波大学写真コンテスト」が見る筑波、君が見る筑波―の作品募集が行われている。締め切りは5月8日。詳細は公式ツイッターまたはFacebookを参照。(山野拓実)

社会貢献プロジェクト 10周年 「教育」プログラム

「デザイナーになりたい」「通訳の仕事がしたい」……。2月20日、筑波大学共同利用棟Aでは、外国人学校に通う高校生たちが思い思いの未来像を語っていた。

定住外国人の子どもに「夢」を

日本での就職を支援

くは市や常総市の外国人学校に通うブラジル人生徒約40人が参加した。日本語が堪能でない生徒もいるため、彼らの母語であるポルトガル語を使用しグループワークや講演会が行われた。



自分の将来について話し合うブラジル人の高校生たち(2月20日、共同利用棟Aで)

グループワークでは、仕事に対する興味・関心を測るチェックテストの結果を踏まえ、自分がどんな職業に向いているのかをグループ内で話し合い、将来どんな人になりたいかを発表した。将来についてまだ何も考えていなかったという15歳の女子生徒は「ヒーローになりたいわけではないけれど、人を助けられる人になりたい。『ありがとう』と言われるのがうれしいから」とほかにみながら少しだけ描いた夢を語った。日本にいる外国人の数は中

石純一准教授(人社会系)らがNPO団体などと共に行ってきたのがこの活動だ。「お金のためにとどろき就職するのでなく、自分が希望する仕事を自分で手繰り寄せようとする意識を強く持てるようになっ

留学生の目

ヒダヤ・ビンティ・メガト・ナビル・モーション

「日本語をちゃんと勉強してくれ!」これを聞いた私は、頭の中で「ひどい、ひどい」と叫んでいた。そして店を去って泣き出した。これは来日して3カ月後のある日、自転車屋で空気入れを貸してもらおうとしたときに日本語でうまく伝えられず、店員から言われた言葉だ。



自文化も尊重したい

「日本語をちゃんと勉強してくれ!」これを聞いた私は、頭の中で「ひどい、ひどい」と叫んでいた。そして店を去って泣き出した。これは来日して3カ月後のある日、自転車屋で空気入れを貸してもらおうとしたときに日本語でうまく伝えられず、店員から言われた言葉だ。

つくば中央署「譲る時には徹底を」

自転車 防犯登録の変更を 盗難を疑われることも



自転車の防犯登録シール

筑波大関係者によると、昨 年、友人から譲り受けた自 転車に乗りかかっていた筑波大 生が、警察から盗難自転車と 認定された。盗難自転車の確 認には手間がかかることもあ り、同署などでは学生に名義 変更の徹底を求めている。

(田中開教育学科2年 栗山菜帆子 障害科学類2年、写真も)

筑波大関係者によると、昨 年、友人から譲り受けた自 転車に乗りかかっていた筑波大 生が、警察から盗難自転車と 認定された。盗難自転車の確 認には手間がかかることもあ り、同署などでは学生に名義 変更の徹底を求めている。

けられている。茨城県の場 合、登録後、持ち主の氏名 や住所が異なると8年間登録 される。また自転車を手放 す際は持ち主が登録を抹消 し、新たな持ち主が再登録 することになる。登録を抹 消する場合、近くの自転車 販売店で自転車購入時にも らう登録カードを示し手続 きを行うか、または警察署 や交番で身分証明書を提示 して手続きする。

「食」をテーマにだんらん 踊りや演奏を楽しむ



家族で祭りを楽しむ来場者(3月14日、つくば センター広場で)

筑波大学の学生が中心と なり地域住民との交流を深 める「ふるさとつくばい いまつり」が3月14日、つく ばセンター広場周辺(つく ば市吾妻)で開催された。 今年「おかえり、ごはん できてるよ」がキャッチ コピーで「食」を通じた コミュニケーションがテー マとなっている。

会場は料理を食べながらパ ーティを兼ねた「グルメパ ーティ」が3月14日、つく ば市吾妻で開催された。 今年「おかえり、ごはん できてるよ」がキャッチ コピーで「食」を通じた コミュニケーションがテー マとなっている。

また、初めて夜間まで開 催されることを受け企画さ れた「ほっとBAR」では 温かいお酒が提供され、大 人も楽しめる祭りとなっ た。

「義務」化で可能性広げる 明確な目標で授業に集中

記者の目

改善とより良い授業を模索 するため、企画「漂流する 教室」スマホと授業を連 載してきたが、今回取材し た国際教養大学は、この問 題の解決へ、一つの指針を 提示していたように思う。 国際教養大は、数々のラ

漂流する 教室

化は新しい大学像を示して いる。では、筑波大はこの制度 をどうとらえるべきだろうか。

筑波大は教育と研究をそ の使命の両輪としている。 その一方で、国際教養大は 実践的な英語や幅広い教養 などの教育を重視する大学 である。その点、筑波大とは 異なる。

ある時は力強い尺八の 旋律、またある時は筆の 雅な調へ……。文化系 サークル会館の和室に響 けられてきた音色。邦楽部 の部員たちだ。

和楽器には初めて触れ るという部員も少なくない が、筆は1週間、尺八 は4カ月ほど稽古を積み 重ねる。稽古は、短期間で 集中的に練習する夏の合 宿で、今年設立40周年 を迎える。部員は年3回 の演奏会に向け、外部 から招く指導者 の下で行う週1 回の稽古と、部 室が使える月・ 水・土曜日の自 主練習に励んで いる。入部時に

確認だ。尺八は、その構 造上一般的な管楽器より も音を出すのがかなり難 しい。綺麗な音を出すた めには、吹く時の姿勢や 行きが生まれる。越深く

大学生のコンタ



この学生は実習授業に 遅れてしまったという。 また同署などによると、 自転車の鍵が壊れていたり 無灯火運転だったために職 務質問を受け、その際、名 義変更をしていないことが 判明。警察側は盗難自転車 の可能性を疑われる例が発 生しているという。

この学生は実習授業に 遅れてしまったという。 また同署などによると、 自転車の鍵が壊れていたり 無灯火運転だったために職 務質問を受け、その際、名 義変更をしていないことが 判明。警察側は盗難自転車 の可能性を疑われる例が発 生しているという。

この学生は実習授業に 遅れてしまったという。 また同署などによると、 自転車の鍵が壊れていたり 無灯火運転だったために職 務質問を受け、その際、名 義変更をしていないことが 判明。警察側は盗難自転車 の可能性を疑われる例が発 生しているという。

この学生は実習授業に 遅れてしまったという。 また同署などによると、 自転車の鍵が壊れていたり 無灯火運転だったために職 務質問を受け、その際、名 義変更をしていないことが 判明。警察側は盗難自転車 の可能性を疑われる例が発 生しているという。

この学生は実習授業に 遅れてしまったという。 また同署などによると、 自転車の鍵が壊れていたり 無灯火運転だったために職 務質問を受け、その際、名 義変更をしていないことが 判明。警察側は盗難自転車 の可能性を疑われる例が発 生しているという。

日本の伝統を奏でる



この学生は実習授業に 遅れてしまったという。 また同署などによると、 自転車の鍵が壊れていたり 無灯火運転だったために職 務質問を受け、その際、名 義変更をしていないことが 判明。警察側は盗難自転車 の可能性を疑われる例が発 生しているという。



ある時は力強い尺八の 旋律、またある時は筆の 雅な調へ……。文化系 サークル会館の和室に響 けられてきた音色。邦楽部 の部員たちだ。

和楽器には初めて触れ るという部員も少なくない が、筆は1週間、尺八 は4カ月ほど稽古を積み 重ねる。稽古は、短期間で 集中的に練習する夏の合 宿で、今年設立40周年 を迎える。部員は年3回 の演奏会に向け、外部 から招く指導者 の下で行う週1 回の稽古と、部 室が使える月・ 水・土曜日の自 主練習に励んで いる。入部時に

確認だ。尺八は、その構 造上一般的な管楽器より も音を出すのがかなり難 しい。綺麗な音を出すた めには、吹く時の姿勢や 行きが生まれる。越深く

Who's Who?

第30期日韓学生フォーラム実行委員長

林 義燦 さん (人文4年)



フォーラム参加学生からの寄せ書きを持つ林さん (2月15日、中央図書館で)

昨年8月8日午後1時、1台の飛行機が韓国に向けて飛び立った。その中には、一人の筑波大学生の姿があった。日韓学生フォーラムの第30期実行委員長。回フォーラムは、日韓の学生が互いの国を訪問し、相互理解を深めるプログラムだ。毎年実施しており、両国の学生が企画・運営を行う。30回目の昨年は、日本人学生9人が韓国を訪

問、ホームステイで韓国の文化に触れたり、討論会やシンポジウムで両国の歴史や政治などについて意見を交わした。小学1年生の時、研究者である父親の仕事の都合で韓国に住んでいた。そのため、もともと韓国はなじみ深い存在。また、留学生が多い筑波大学に入学してからは国際交流に

も興味を持つように。そんな折に大学の先生から日韓学生フォーラムを紹介され、参加を決意した。大学2年の冬のことだった。しかし参加した当初、フォーラムは風前の灯火だった。通常は、前年のフォーラムに参加した学生が翌年の実行委員会を指揮するが、全員が卒業の都合ですでに引退していたのだ。新実行委員は全員がフォーラム初参加。物静かな性格で集団を引っ張ることは得意ではなかったが、会員の中で最年長だったこともあり、実行委員長に推薦され引き継ぐことになった。しかし、何をすべきなのか全く分からない。まさに手探りの状態だったと振り返る。まずOB・OGと連絡を取り、仕事を一から教わった。最初に取り組んだのが資金集めだ。フォーラムの実施には約180万円必要だったが、学生から多額の資金を徴収することはできない。そのため、企業に資金援助を交渉する必要があった。

フォーラム再生の立役者「外の世界」で視野広がる

だが、交渉は難航。面会を断られたり、直接交渉できても「援助のメリットが分からない」と蹴されたこともあった。しかし、会員と共にフォーラムの資料の改訂を重ね、粘り強く交渉。少しずつ良い返事がもらえるようになり、最終的に大手企業2社から計110万円の資金援助を受けることができた。

韓国側とフォーラムの規則を協議するのにも重要な仕事だった。その中で、意見が対立したことも。韓国の実行委員はフォーラムを厳格な学術プログラムと捉え、「期間中は英語の使用を徹底すべき」と主張していた。しかし林さんは「交流を重視したい参加者もいるはず。日本語も韓国語も使えるようにして自由な雰囲気を作りたい」と意見し、議論に。スカイプやLINEで何度も話し合った結果、プレゼンなどの場では英語を使用し、それ以外では母語も使って良いとした。英語に自信がなくても、母語を織り交ぜ

て積極的に会話する学生が多く、交流がより深まった」と話す。韓国で15日間過ごし、世界観が大きく変わった。最も印象的だったのがホームステイだ。初めは韓国人に対し「感情的で怒りっぽい」というイメージがあった。しかし、実際にホストファミリーに会うと気さくに話しかけてくれ、すぐに打ち解けた。「こんなに相手の国について勉強しても、足を運んでみないと本当の姿は分からない」と感じた。韓国で「未来の夢にも変化が。以前は漠然としていたが、実行委員長を経験して何かをやり遂げる達成感を知り、「自ら動いて日本の制度設計の担い手になりたい」と思うようになった。現在、行政官を目指して法律の勉強をしている。

次号は

5月18日(月)

発行予定です

編集後記

20年前、私の祖父は筋萎縮性側索硬化症(ALS)で亡くなりました。母が嫁いできた時にはすでに呼吸器が付き、言葉を発せなくなっていたそうです。今号で、ALS患者が「会話」できるよう取り組む、ルトコフスキ・トマシュ・講師(シス情系)の挑戦を紹介しました。もし祖父が生きていた時に実現していたら、母とどんな話をしたでしょうか。「息子をまっしぐら」お前が気に入らない……。何を思っていたか、今では分かりません。▼「伝えることができる」というのは、どこまで尊いことでしょうか。本紙が発信し続けてきた「つくばに街灯を」キャンペーンが実を結び、わいせつ事件が頻発していた春日地区に街灯が立ちました。自分たちの意見が社会を動かすことを、これほど実感したことはありません。情報を発信する責任を感じつつ、その責を噛み締めて、新聞を作り続けよう(編集長・森脇慎二社会学類3年)

三谷教授の折り紙研究



メディアアートフェスティバルで展示された作品 (3月21日、茨城県つくば美術館で) =山野辺拓実撮影

16面へ

ESSASSA 公演



力強い声で熱唱する団員 (3月7日、3A棟で) =廣岡里穂撮影

16面へ

ブラインドテニス講習会



笑顔でボールを打ち返す参加者 (3月22日、筑波大学武道館で) =田中開撮影

18面へ

ふるさとつくばゆいまつり



つくば産の野菜を使った豚汁を振る舞う筑波大生 (3月14日、つくばセンター広場で) =宇布知夏撮影

19面へ

学芸

学芸

学生生活

学生生活